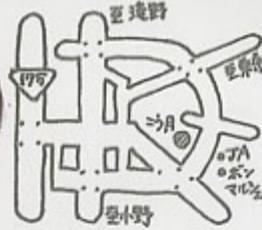




Kouzuki



ホームページアドレス
<http://www.kouduki.com>
 携帯用ホームページアドレス
<http://kouduki.msc.ms2.jp>
 〒673-1431 加東市社349-1 (ポリアル江社前)
 TEL 0795-42-0359 (代) FAX 0795-40-2172
 営業時間AM9:30~PM7:00 定休 水曜日

十月...きもの事始め...

秋は少しづつ深まり、いき、樹々の緑はうっすらと色が変わり始め、菊の花が咲く季節です。10月1日は衣更えで、学校の制服は夏から冬へ、きもには単衣から袷に変わります。前半は夏の名残を感じさせる気温の日もあるので、単衣でもいいのですが、小物の色などで秋を意識しましょう。空気の穏やかなこの時期、虫干しにも最適です。

きもの地色は、年齢にとらわれず、好みの色、着心地のよい色も、帯は、そのきものに配色のよい、新しい色を選びます。秋の五感を生かしておしゃれなコーディネートを楽しみましょう。

秋の色 秋の実りの色を基調にした装い

感性に響く季節の色



秋は、「白秋」の名があるように、澄明で空気さえ清らかなです。秋は、秋らしい色のほかに、「香り」があり、「音」も感じられます。秋の風に「色」が運ばれてきます。

現実にははたでも、人の感性に告げる季節の色があるもので、人それぞれイメージによって、色への想いは異なるかもしれません。

色は思い入れに左右されるものなので、季節感を慣習的に受けとめることが多いもので、秋らしい色を選ぶことにしています。

きものと帯の取り合わせは、洋装よりも派手な色を使い易く思われがちですが、色彩は着る場に合わせるのが基本です。洋装を意識してきて、暗い色、地味な色、文様のない帯などを取りきものが作られるようになったが、晴の席には着映えがよいことが、わが国に由来する。普段着にはよい「晴着のきもの」は年齢相応でないといけません。そして、良いきものは上品であること、色合いは淡くても、取り合わせ次第で着映えがよくなるのが大切です。

五感に通じる色彩を選んでおしゃれな装いを

大空の青のまわりは伊づくまで、ふかきものかたに下に仰ぎつつ
 (鹿児島寿蔵 歌人・紙型人形の人間国宝)

空の青さを詠み歌が多いので、この歌のしるべに引かれて、青の芽ぐに色に「秋風の音」を感じています。青の薄いのには「浅葱色」ですが、下に浅い色よりも影を加え、感じを加えて「浅葱鼠」もふいでしょう。葡萄色を地味めにした濃い「葉銅色」など落ちついた地色のきものは、白衾の清潔感により、着やさいものになります。帯は、季節感を表現できますから、一枚あれば重宝します。同系色の「藤鼠色」は無難。白緑の帯は、間違いない調和します。どちらの小物の配色で遊ぶと大きく変化します。年代の差も着る人の趣味性により、「物語」を思わせたり、文学的な意味のある色を添えてみたりする楽しみもあります。

季節を象徴する自然の色をまろ

「紅梅色」は、柿の実を想わせるとも見えますが、柿の色よりは薄く、栗よりも明るく、紅葉の赤には少し濃い色合いです。

「梅茶色」は深く、しゃれた色合いです。意外はうですが「苔色」の帯があれば面白いので、栗色の帯でも安定します。「杏色」といえば甘ず、ほい味を思い出します。若々しい色ですから、さわやかな「白緑色」や、シルバーグレーの帯も合います。

青みのある灰色を「青鈍」とも名でいいます。中間色の青の地味な色を「納戸鼠」とも呼びます。錆のある色なので、声では「さびのきいた男の声」といふこともあります。この難しい色合いは、陶器の色で表現されることもあります。絹織物のなかでも「結城紬」などにこの地色があります。帯に明るい印象の「蜜柑茶色」を落とすと、モダンで若々しい印象に。

帯や小物で取り合わせの妙味を楽しみ

帯の材質にもよりますが、少し明るめの染め帯を取り合わせると、きものが地味であっても、現代感覚のある装いとなることで、晴着の織物の帯のほかに、染め帯は手軽なので、いろいろな場面に楽しむことができます。秋の装いにおしゃれ心を遊ばせるよい季節です。五感に通じる色彩を選んでみましょう。



ふかこの芸術の秋

京都府庁日本館「観芸祭」

2014年10月30日(木)~11月16日(日) 10:00~17:00

京都市上京区下立売通新町西入京都市府内
 入館料無料

- 京都府庁日本館において毎年開催している秋の公開事業「観芸祭」。
- 今年も、京都デザイン協会による京都デザイン賞2014入選作品展・表彰式・作品講演会、デザイナーの仕事・展及ビジュアル相談会やフューチャーズ育成協会による30周年記念花会とアレンジメント体験などが多彩な芸術・文化関連イベントを中心に展開される。
- ぜひ、芸術の秋を満喫しましょう。

虫干しは必須 簡単な方法でも風を通すこと

虫干しは、もっとも基本的で大切な手入れのひとつです。住宅の気密性が高まり、着る頻度が減った現代では、昔より、いっそう大切といえるかもしれません。きものには、湿気が大敵。桐箆でも、雨としま、たまにはいけません。収納場所には、必ず、半年に一度は虫干ししましょう。晴れた湿度の低い日に通気性がよく、日光が当たらない所で、きものや帯をハンガーなどに掛け、数時間陰干しします。このとき、汚れや傷みかたは、かき洗ひましょう。箆も開けて、空気を入れ換えます。全部一度に干すのが難しい場合は、少しずつでも、気がついたときにしておきましょう。たたんだまま、下地の紙を開いておいたり、箆の扉を開いておくだけでも、ある程度有効です。長くしまっておくと、湿気がたまり、絹のきものが傷みますから、ときどき風を通すことが大切です。

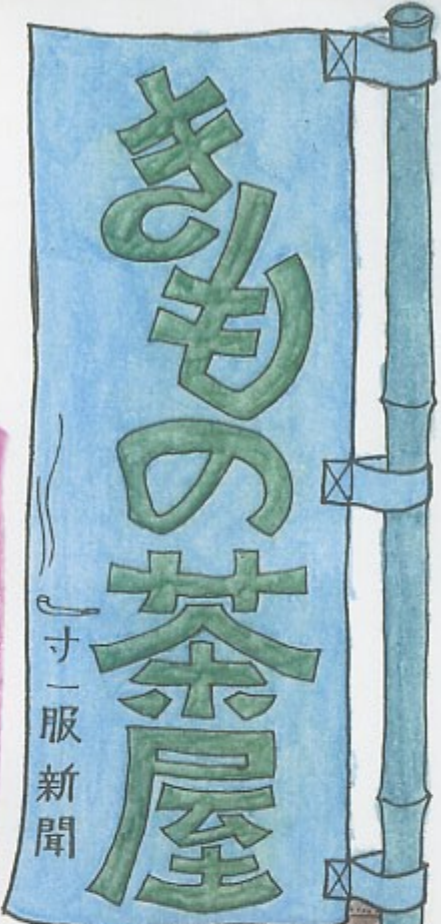
七五三 11月15日

大切な成長の節目は晴れ着で!!
 神社で壮健幸運を祈願する行事。

- <満年齢> <数え年>
- 3才男女・H23年生・H24年生
- 5才男・H21年生・H22年生
- 7才女・H19年生・H20年生

基本的には、数え年で行いますが、お子様の成長に合わせて行いましょう。準備はお早目に!

- 音楽コンサート (ヴァイオリン演奏と創作ダンス 琴曲、オーケストラ、アラブ音楽祭 女性ソング、オケ、ピアノ演奏)
- 日本舞踊、オペラ、TSB
- 福島県復興支援



2014 神無月
 October